# サクラソウ日記

自学ノート提出数累計
585 冊(348 人)11/24 現在

文責　校長　宮脇　真一

今週は、児童玄関に「おはようございます」の声が響き渡りました。高学年の児童によるあいさつ運動です。これまでは安尾先生が児童玄関に立って声かけをしていましたが、有力な「なかま」の登場です。

児童の様々な自主活動、その企画も次々と相談があがってきています。「感染対策を取りながら……」と話そうとすると「校長先生、そこはですね……」と担当の児童が説明をしてくれます。「廊下の右側を歩こう」「トイレのスリッパを並べよう」など、これまでもこれからも活動は続きそうです。

あいさつ運動展開中
（令和４年１１月 24 日撮影）

## 「話し・見守る」～5年生の学びから～

週末になると、各学年や学級の通信が届きます。今週は、５年生の学級会の話題が届きました。テーマは、「６年生に向けてできることを考えよう」。自発的に始めた朝のボランティア活動がきっかけで、その活動をもっと広げていきたいとの趣旨でした。

４５分の活動の中で、先生が話す時間は冒頭の２分。あとの４３分間は子どもたちのディスカッションだったとのことです。担任の先生の「ねがい」は「自分事として考えられるようになってほしい」。通信の中には「学級会でいちばん気をつけたことは、担任である私ができるだけ黙って見守ることです。自分たちでよりよい考えを導き出していくことに価値があるからです」と、その思いが綴られていました。

もう３０年以上前のことですが、私は大学３年次の教育実習で、担当教官から「子どもができることを奪うな。教師が（大人が）為すべきことを怠るな」ということを徹底して指導いただきました。ちょうど平成元年のことでした。それから 30 年以上の時間がたち、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わりました。しかし、時代は変わっても、親が子を思う気持ち、教師が児童を思う気持ちに変わりはないと私は思います。我が子も我が学校の子どもたちもかわいいし大切です。私たち大人はつい、口をはさんだり、手を出したりしてしまいます。（これは我が子に対しても同じです）しかし、この子たちの「自立」を願ったとき、「今」が声をかける、手を出す時なのか、一呼吸置いて考えてみると、かける言葉、支える動きも自ずと変わってきます。

「自分に自信と夢を」が本校の学校教育目標です。日々の教育活動はこの学校教育目標の具現化に向けて取り組んでいます。通信を読み、子どもたちの姿を思い浮かべながら、大人の「出番」を考えた出来事でした。

## おめでたい話

*吉永先生　ご結婚*

２年３組担任の吉永先生が結婚されました。「いけないことをして叱られる時は怖いけど、やさしくてかっこいい」（３組の児童コメント）という吉永先生。披露宴での幸せいっぱいの笑顔もとても印象的でした。